アカイカ（Ommastrephes bartrami LESUEUR）の性熟個体に関する１，２の知見

鈴木弘毅（神奈川水試）

アカイカは１９７４年の漁場開発以来，１９７６年までは倍増ペース，その後は年々，１０万トン以上のオーダーで漁獲され，スルメイカと並んで，主要産業種として定着した。

このようなことから，本種の資源有効利用，維持，管理および，効率のよい操業上の指針とすべき，生態の究明が急務となっている。しかし，本種に関する生態の研究は歴史が浅く，知見も少ない。特に，産卵に関与する部分は現在の処，推測の域を出ない。

著者は先に，成熟に達した雌雄の個体と，若令，未成体の採集結果，及びそれぞれの関連から，産卵場，産卵期，成長量についていくつかの仮説を提起した（１９８０年6月，水産海洋研究会報第３６号）。

たとえば，産卵場は，伊豆諸島近海以南の大洋に存在する瀬・礁　あるいは南西諸島の周辺域と推測し，産卵期は比較的長期間で，冬～春季に相当するとした。

これ等の仮説の妥当性を検証すべく，１９７９年2月２５日～3月１２日，同年4月１５日～5月２０日に，本場所属漁業指導船相模丸（２４０トン，1,000馬力）が，漁場開発，企業化試験の目的で得た結果を解析したところ，本種の性熟個体に関する１，２の新しい知見が得られたので報告する。

結果を要約すると次のとおりである。

1. 雌雄の成熟個体は主に鳥島周辺あるいは紀南礁という，島嶼とか，礁・瀬上での採集が多く，著者の仮説と一致する。
2. 生息環境は黒潮反流域（亜熱帯水域）である。
3. 魚体の大きさは雌雄間で大きく異なり，雌では外套長３８～５０㎝，雄では２９～３６㎝である。また，雌雄ともに，２～3月採集した組成と４～５月の組成とは１～２㎝のズレがある。
4. 雌の生殖付属諸器官の発達からして，２～3月に採集したものより，4月に採集したものの方が成熟が進んでおり，これから判断すると，産卵期間は長期間にわたるが，主産卵期は４～５月と考える。ただ，ここでは年特性は配慮していない。
5. その他のイカ類としてはソデイカ　Thysanoteuthis rhombus（TROSCHEL）が採集された。